

## その青年の描く一本の線が、世界を変えた ビアズリーと日本



ビアズリー《孔雀の装裾》  
（『ビアズリーによるオスカー・ワイルド著  
「サロメ」の挿画のためのドローイング集』より）

夏休み親子で楽しむ美術館  
アートdeものがたり

前田利為の  
業績とコレクション

久隅守景

文様がいっぱい

夏休み優品選



中出信昭《二人の航海》

# その青年の描く一本の線が、世界を変えた **ビアズリーと日本**

主催／北陸中日新聞、石川テレビ放送、石川県立美術館

後援／ブリティッシュ・カウンシル、石川県、金沢市、金沢市教育委員会、エフエム石川 特別協賛／東海東京証券

7月23日(土)～8月28日(日) 会期中無休

## ◆観覧料

前売り・団体 (二十名以上)	七〇〇円	五〇〇円	
個人	一、〇〇〇円	七〇〇円	無料
			一般
			高校・大学生
			中学生以下

※当館友の会会員は、受付での会員証提示により団体料金に割引されます。(なお割引適用は同伴者一名までです)

## ◆お問い合わせ

北陸中日新聞事業部  
電話：〇七六一三三三―四六四二(平日10時～17時)

## ◆前売り券取り扱い場所

中日サービスセンター、香林坊大和プレイガイド、音楽堂チケットボックス、うつのみや各店、アピタ松任ティオ、チケットぴあ(Pコード：767-575)、ロンドンチケット(Lコード：57142)、セブンチケット(<http://7ticket.jp>)、金沢中日文化センター、北陸中日新聞販売店(お取次ぎ)ほか

※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方は前売り料金。付き添い一人は無料。

オーブリー・ビアズリー(一八七二～一九八)は、世紀末の代表的挿絵画家として知られています。

イギリス・ブライトンに生まれ、建築事務所、保険会社に勤めた後、一八九一年バーン・ジョーンズに勧められて画家を志します。デント社から『アーサー王の死』の挿画を依頼され画業に専念し、オスカー・ワイルドの戯曲「サロメ」(一八九四年・英訳版)の挿絵により、一躍時代の寵児となります。作風には、ラファエル前派、ホイットスラー、日本の浮世絵などの影響も認められますが、独特な世紀末の魅力があります。若干二十五歳で結婚により夭折したビアズリーの表現世界は、日本では『白樺』など文芸雑誌が伝え、世紀末芸術を象徴するスタイルに、数多くのフォロアーが生まれました。

本展は、ロンドン・ヴィクトリア&アルバート美術館をはじめ内外の美術館、所蔵家の協力のもと、二七〇余点のイラストや版画、装幀本によって、時空を超えたジャポニスムとヨーロッパ世紀

末芸術の美の邂逅と、六年に満たない短い歳月の中に燃え尽きた天才の軌跡をたどるものです。

## 関連イベント

### 記念講演会

日時：七月三十日(土) 午後二時～

演題：『「サロメ」―美の衝撃、東西に走る―』

講師：河村錠一郎氏(二橋大学大学院言語社会研究

科名誉教授)

### 記念コンサート

日時：七月三十一日(日) 午後二時～

出演：石川公美(ソプラノ)、近藤洋平(テノール)、

田島睦子(ピアノ)

内容：北陸出身の実力派三人が十九世紀末のオペラや歌曲を奏でます。R・シユトラウス、C・ドビュッシー、G・プッチーニ、F・ショパンなど(予定)。

講演会、コンサートともに会場は美術館ホール。

各先着二〇〇名、開場は三〇分前から、聴講無料。

聴講には本展の入場券が必要です。



ビアズリー〈クライマックス〉  
(『ビアズリーによるオスカー・ワイルド著「サロメ」の挿画のためのドローイング集」より)



オーブリー・ビアズリー

# 特別陳列 財団設立90周年 前田利為の業績と コレクション

7月22日(金)～8月28日(日) 会期中無休

## 学芸員の眼

旧大名家のコレクションに対しては、財力に物を言わせた無定見なものとの根強い先入観があるようです。筆者も三十年前に、前田利為の収集によるバツハの自筆楽譜について、最初に調査した当時高名な音楽学者に問い合わせたところ、金持ちの道楽との認識だったことに愕然とした記憶があります。しかしそのお陰で、地域に根ざした文化拠点として加賀藩主・前田家が推進した文化政策を独自の視点で再検証することが、石川県立美術館の重要な社会的使命であると思ひ至りました。

昨年の「加賀前田家 百万石の名宝」展は、その一つの集大成でした。文化による人間形成の重要性を深く洞察した加賀藩五代藩主・前田綱紀の精神を、世界大戦に突入してゆく時勢に実践した利為の遺徳は、今日の文化の在り方を厳しく問いかけています。

前田利為(一八八五～一九四二)は、旧七日市藩前田家十二代利昭の五男として生まれました。七日市藩は、加賀藩祖・前田利家の五男利孝が大坂の陣の功によって上野国甘楽郡内(群馬県富岡市)に石の封地を与えられ、七日市(群馬県富岡市)に陣屋を構えたことに始まります。旧加賀藩前田家十五代利嗣に男子がなく、さらに旧富山藩、旧大聖寺藩にも男子がなかったことから、利為が養子として家督を継ぐことになりました。

利為は本郷に和・洋館を新築し、明治四十三年(一九一〇)七月八日に行幸を迎え、旧大名家の当主としてのステイタスを示しました。また編纂事業にも熱心に取り組み、『加賀藩史料』や前田家に伝来した典籍類を翻刻した一連の「尊經閣叢刊」などを刊行しました。さらに、加賀藩歴代藩主が収集した典籍類や美術工芸品を保存・公開する図書館・美術館の建設の必要性を強く主張し、前田家に伝来した重要な文物を売却して財源を確保しました。そして大正十五年(一九二六)二月に公益法人「育徳財団」が設立され、当初は古文書や図画の複製・頒布を中心とした活動が、以後文化財の保存・管理や研究への対応という形に拡大されていきました。

このように、今日前田育徳会所蔵の文化財を良好な状態で鑑賞することができるのは、ひとえに利為の尽力に負うものです。今回の特別陳列は、本年が財団設立から九十年の節目にあたることから、加賀藩歴代藩主の後継者としての矜持をもって利為が推進した文化事業の成果として、重文《武家手鑑》をはじめ、親交があった竹内栖鳳の帝展出品作、駐英大使館附武官として滞在中に購入したナポレオン他の書簡、初期の叢刊など約三十点を展示し、利為の業績を改めて顕彰するものです。

竹内栖鳳《鱈(青花魚)》

# アートdeものがたり

7月22日(金)～8月28日(日) 会期中無休

## 学芸員の眼

学校で鑑賞授業を行う出前講座や、美術館での展示室を鑑賞するキッズ・プログラムでは、時々、作品を前にその作品がどんな作品かお話し立てて語ってくれる子どもたちに出会います。このような作品から連想して自分の経験や作品を見て浮かんだストーリーを話す子どもたちの様子は、5、6歳ころから見られ、今回の展示でもこのような場面はあちこちで見ることができましょう。子どもたちのそんな場面に出会ったら、「へえ、そう思ったんだね」とたくさん聞いてあげてください。小学生ならこのような作品から連想して自分の考えを語ることから、次は「どこからそう思ったの?」など聞いてみると、より深いものの方や会話に発展します。このような体験は、子ども自身が自分で絵を見ることの楽しさを知る、良い機会となることでしょう。

夏休み恒例「夏休み親子で楽しむ美術館」は、初めて美術館での作品鑑賞をする方にもおすすしたい展示です。この夏休み、親子で、ご家族で美術作品を見る楽しさを味わってみませんか。

今年のテーマは、「アートdeものがたり」。今回は文学作品や歴史的な出来事などを取り上げて制作された「ものがたり」を表した作品と、鑑賞している私たちがその作品から何かストーリーを感じる「ものがたり」が生まれてきそうな作品を取り上げます。

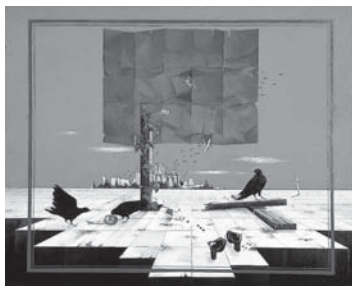
美術の世界では、古くから「ものがたり」の重要な場面や作家の心に触れた場面などを題材に取り上げることが行われてきました。日本でも源氏物語をはじめ文学作品は絵巻、そして、大画面の屏風などに描かれ、室内を彩りながら楽しまれてきました。「ものがたり」をあらわした作品は、その物語を知っている人もそうでない人にも、「ものがたり」の世界に引き込み、文字で表現された世界をより豊かに広げてくれます。

また、作家は小説や神話、また、歴史上の事件だけでなく、広く世間に知られることはなくても、一人一人の人間の身に起きる様々な出来事や自然界のドラマにも、いろいろな「ものがたり」を見い出して表現しています。そんな何かストーリーを感じさせる作品もこの展示室に集めてみました。そして、そんな作品から今度は鑑賞している私たちが「ものがたり」をつくってみるのはいかがでしょうか。

今回の展示では、屏風や掛幅といった日本画や油彩画などの絵画から、彫刻、人形まで、いろいろな分野や形態の作品を展示しています。「ものがたり」から生まれた作品、そして、鑑賞するあなたがつくる作品から生まれた「ものがたり」。この展示室でさまざまな「ものがたり」と出会ってみてください。



紺谷光俊《雪中難旅之図》



中村静勇《虚飾》

## 第5展示室 工芸

# 文様がいっぱい

7月22日(金)～8月28日(日) 会期中無休

前回の近現代コレクション展では、「生活の中の工芸」のテーマのもとに、日常使用する道具としての工芸を意識し、その用途に応じて組み合わせ展示構成しました。今回の展示では、視覚的に目を楽しませる意匠に注目してみました。工芸作品に施される意匠は、植物・動物・人物・自然といった具象的な表現から、抽象的・パターン化された幾何学的な文様など多様で、その構成も余白を生かした簡潔なものから、器面を埋め尽くすような複雑なものまで実に様々です。

本展では、器面に多くのモチーフが盛り込まれ、にぎわい豊かな意匠がうかがえる工芸作品をまとめて展示します。清水美山の《色絵金彩花詰蓋物》は、身と蓋にたくさんの花々が詰め込まれ、華麗な色彩と盛り上げた金彩の表現によって華麗な姿を見せています。また、小田清山作《細字小倉百人一首和歌花瓶》は、側面にいくつか四角い窓を設け、その中に細かい流麗な線描で百人一首をびっしり描き込み、またその外の空間には歌人の姿を、色絵金彩で精緻に表現しています。このほか、多種多様な意匠があらわれた漆芸・染織作品もあわせて展示しますので、この機会に文様の世界を楽しんでいただければ幸いです。



小田清山  
《細字小倉百人一首和歌花瓶》  
昭和28年



清水美山作《色絵金彩花詰蓋物》  
明治

## 第2展示室 古美術

# 久隅守景

7月22日(金)～8月28日(日) 会期中無休

昨年東京で久隅守景の企画展が開催されたことを契機に、深いながらも日本人の心の琴線にふれる高い精神性を打ち出していた守景の表現世界が改めて注目されました。守景の生没年など、生涯の詳細については不明な点が多いのですが、江戸画壇の頂点にあった幕府御用絵師・狩野探幽門下の傑出した画家として知られ、十七世紀後半に少なくとも二度加賀の地を訪れ、納涼図や一連の四季耕作図などの名作を描いたと考えられています。

当時の加賀藩は、文化政策で徳川幕府に優越しようとの気概をもって名工の招聘や名品の収集に意欲的に取り組んでいました。「探幽門下その右に出る者無し」と高く技量を評価されていた守景ですが、後年何らかの確執があつてその門を去りま

した。そこで加賀藩の文化風土が守景の気骨と絶妙に響き合い、守景は加賀の地で画業を開花させることができたのではないのでしょうか。

今回は、守景の中心的な画題ともいえる《四季耕作図》の中から、重要美術品、県文、重文に指定されている三点を同時に展示します。いずれも狩野派の伝統に沿った構図ですが、描かれる風俗が次第に和様化されている点が注目されます。特に重文では年貢の石高を通告する代官が描かれており、さらにその左上に積み藁を背に犬と遊ぶ子供が描かれています。ここには、加賀藩五代藩主・前田綱紀の善政を称賛する意図があるようです。その他にも、国宝《納涼図》とそっくりな人物が登場するほか、重美、県文にもい



久隅守景 重文《四季耕作図》(右隻部分)

## 講演会記録

# 「僕が知っている脇田さん」

講師：洋画家、文化勲章受章者 野見山暁治氏

平成28年5月1日(日)

フリーアナウンサー上坂典子氏との対談形式で行われた内容の一部を抜粋し、当館の文責で掲載します。

ーモチーフの鳥について脇田さんからお聴きになったことは。

モチーフについてはあの人は語らなかつたけれど、あの絵を見ると、鳥も坊やも、みんな脇田さんに似ていると思う。自画像ですよ、どれも。ただ、みんな鳥だ、人間だと思ってみているけど、見ている人はうまいこと刷り込まれてしまっている。脇田さんの絵というのは記号ですよ。これは人間これは鳥と、記号をかいている。それでいて実際に見ている人は刷り込まれてしまうのだから、ふしぎな絵だなと思いますね。ただ、あれができるのは非常なデッサン力なんです。量感だとか立体感ではなく、

日本人にはちょっと無いデッサン力の持ち主じゃないかと思つて見えています。

それと、よく同じモチーフをあれだけ描き続けたなと。同じモチーフをずっと描き続ける絵かきさんはよくいますよ。でも、たいていの作家は息切れしてマンネリになる。鳥ならこうかけば鳥だろうと。だんだん写生的な形骸だけが残つて、生き生きとしたものがなくなるんです。脇田さんは、亡くなるまで同じモチーフをかき続け、それがいつも生き生きとしてちがう。同じものでもちがう形となつて表れてくる。人間なり鳥なり、同じモチーフをあれだけ見詰め、その日その日における新しい感情に相對して、今日は初めてだという気持ちを持つ。そうでないとあれはできない。そういう点で稀有な作家だなと思つています。



野見山暁治氏

## 第3・4展示室

# 夏休み優品選

7月22日(金)～8月28日(日) 会期中無休

日本画部門から夏にふさわしい女性像を二点紹介します。まず坂根克介《中国服の女》。孔雀の羽を広げたような籐椅子は、かのフランス映画を彷彿とさせます。実は映画で使われた椅子はずっと小さいのですが、女性らしさを演出するにはうつつけの小道具なのでしょう。稲元実《午睡》は熱帯魚とシートにくるまった女性のダブルイメージ。静けさと涼しさを感じさせます。

洋画部門では軽井沢の脇田美術館での脇田和展(七月五日～十月二十六日)に連動し、脇田和小特集を前回からの優品選に加味します。展示作品は《西瓜と貝殻》《飛転》《鳥飼のアルバム》《今日の選択》等に素描と版画作品です。なお、軽井沢の脇田美術館と当館とは双方の展覧会チケットの半券

(先の脇田和展―鳥に詠うを含む)で入館料等の割引優待を行います。金沢と軽井沢、新幹線で1時間半です。双方の脇田作品をお楽しみください。

彫刻部門の展示は第3・4室に分かれ、素材・技法別の各分野の優品による構成です。代表作を挙げますと、4室の畝村直久《和》は三人の裸婦群像で重厚・豪華な存在感を示すのに対し、3室の吉田三郎《山羊を飼う老人》は二頭の山羊と人生の歩みを深く刻む老人像による群像で、共に鑄造作品です。4室の木戸修《SPIRAL 3-TURK》と3室の高橋清《人とトラロック》も好対照で、前者は鏡面磨のステンレスによる書の草を連想させる自由な造形に対し、後者は木素材との地道な対話を通し、静かに神話・伝説を物語る作例といえましょう。



坂根克介《中国服の女》

# 「近代美術の至宝—明治・大正・昭和の巨匠—」

平成28年9月10日(土)～10月23日(日)

「教科書に載るような名品」をご覧いただきたい、そのような思いから、この展覧会は企画されました。多くのご所蔵先のご協力のもと、絵画、彫刻、工芸、それぞれの分野において、近代日本の美術史に残る作品の数々を展示する予定です。

さて、絵画や彫刻と比べて、工芸の作家や作品を思い浮かべられる人というのは、少ないのではないのでしょうか。もちろん「工芸王国」とも称される石川県、工芸に親しんでいる方は少なからずいらっしゃると思いますが、しかし、例えば学校の教科書において、美術史を含む文化史の記述は多いとはいえず、その中で工芸史、しかも近代以降となると、ほとんど触れられることがありません。今回の企画展では、全国から、時代を代表する各分野の作家の作品を集めて展示いたします。近代工芸が歩んできた道のりや、作家たちの試行錯誤を、実際の作品を見ながら感じられるまたとない機会となっております。同じ分野でも、日本伝統工芸展などを舞台として伝統技法を重視した作品とするか、あるいは日展などを中心に、個性の表出を目指した活動をするかで、作風には大きな違いがみられます。また他分野の作品とうしに、共通した同時代の傾向が感じられることもあります。個々の作品の魅力はもちろんです。みなさまにはこの折に、近代といふ時代の大きな流れを感じ取っていただければ、と思っております。



香取秀真《笑獅子香炉》  
千葉県立美術館蔵

## キッズプログラム予定

〔七月〕

### 子ども一日学芸員

参加無料 ※申込は締め切りました

28日(木)	「子ども学芸員一日コース」 小学4～6年 午前九時三〇分～十二時
28日(木)	「子ども学芸員パワーアップ二日間コース」 小学4～6年 午後一時三〇分～
29日(金)	定員／両コースとも親子5組計10名

〔八月〕

### 制作体験

申込締切：7月23日(土)必着

8日(月)	「ものがたりの絵をかこう」 小学1～3年 午後一時三〇分～ 定員／親子15組計30名 参加費／親子2名で三〇〇円程度
10日(水)	「七宝焼に挑戦！」 小学4～6年 午後一時三〇分～ 定員／親子15組計30名 参加費／親子2名で一、五〇〇円程度
12日(金)	「かんたんしかけ絵本をつくらう」 全学年 午前一〇時三〇分～ 定員／親子15組(1組3名まで) 参加費／一人五〇〇円程度

## 兼六園周辺文化の森

### 夏のミュージアムウィーク

八月五日(金)～二十一日(日)

「文化の森の夏祭り」と題して兼六園周辺文化の森を舞台にくり広げられる芸術、文化の祭典。日中は子どもたちを対象とした企画が満載、夜は光と音のアートを多彩にお届けします。

### ◆ギャラリートーク

日時：八月十七日(水) 午後二時～三時三〇分

会場：2階コレクション展示室



板谷波山《葆光彩磁孔雀尾文様花瓶》  
1914年頃 茨城県陶芸美術館



松岡映丘《右大臣実朝》1932年 第13回帝展  
日本藝術院



磯井如真《蒔罽草花文八角食籠》1955年  
東京国立近代美術館工芸館



堂本印象《木華開耶媛》1929年  
京都府立堂本印象美術館



高村光太郎《手》1923年  
礒山美術館



安井曾太郎《阿部能成像》1934年  
東京国立近代美術館

次回の展覧会

会期：  
9月1日(木)～10月10日(月・祝)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室		ご利用案内 コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※( )内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション 展示室無料の日(8月は1日) 今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休 8月の休館日は 29日(月)～31日(水)
加賀藩の 美術工芸 I		福者認定記念 高山右近		
第3・6展示室	第4展示室	第5展示室	1F企画展示室	
石川の現代作家	立見榮男展 —野に棲むあじたち—	秋の優品選 I	近代美術の至宝 —明治・大正・昭和の巨匠— 9月10日(土)～ 10月23日(日)	

### ガン保険

チューリッヒ生命「終身ガン治療保険プレミアム」

通院治療が増加している時代の、  
画期的なガン保険

既にガン保険にご加入されている方に

●主契約：放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)

●保険期間・保険料払込期間：終身

月払保険料 **1,500円** (35歳男性)

月払保険料 **1,500円** (43歳女性)

追加のご加入で、ガンの通院治療の保障を充実

●主契約：放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)

●特約：ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除

●保険期間・保険料払込期間：終身

月払保険料 **3,216円** (40歳男性)

今、ガン保険にご加入されている方も、ご加入されていない方も今すぐチェック!

**0037-6001-60140**

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。ZURICH 恐れ入りますが携帯電話等でおかけください。

《募集代理店》  
株式会社ニートン・フィナンシャル・コンサルティング  
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-17-18

※記載の保険料は2015年6月現在のものです。※この欄は商品の概要を説明しています。商品の詳細については、パンフレット、ご契約に関する注意事項(契約概要、注意喚起情報)等をご確認ください。

石川県立美術館だより  
第394号(毎月発行)  
2016年8月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel: 076(231)7580  
Fax: 076(224)9550  
URL: <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>